



ノ代理者チル官吏ノ所為ニ因リ權利ヲ侵害セ  
ラレタリトスル臣民カ國皇ニ救濟ヲ乞願スル  
ノ方法ヲ謂フ而シテ此訴願ヲ許ス事項ヲ大別  
スレハ(第一)收用抑留セラレタル許  
ニ債權ノ回復(第三)違約賠償ノ要求ナリトス夫  
ノ私犯ニ基キタル要債ハ訴願ニ依ルモ之ヲ求  
ムルユトヲ許サス是國皇ニ不法ノ所為アル  
カラストノ原則ニ由來スルモ途ナリ訴願事  
ニ制限アルカ故ニ臣下救濟ノ途稍狹ナリ  
知シト龜氏歐洲大陸ノ所謂行政裁判ニ付スル  
事件ハ概テ通常裁判所ノ審判ニ歸スルカ  
臣民救濟ヲ得ル途ハ其大比ニテ特ニ  
狹隘ナルニ非ス帝國皇ニ對シテハ權利ヲ以テ

相抗スルヲ許サス必ラス訴願ニ依ラシムルノ

(参照第一号)

官吏ノ所為ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリト思  
量スル者ハ何レノ場合ニ於テモ行政裁判所  
出訴スルハ各主務官廳ニ對シテハ別ニ法律ニ  
ル者ニハ各主務官廳ニ對シテハ別ニ法律ニ規定  
制度ニシテ之ヲ裁願スルニ依リテハ別ニ法律ニ  
タル手續ヲ加シ(参照第二号)  
從前行政処分ニ因リ公權私權ヲ害セラレタル  
伊國



一千八百七十五年ノ法律ヲ以テ行政廳ノ違法  
 ノ裁定又ハ命令ニ因リ場合ニ於テ行政裁  
 ト主張スル者ハ總テノ場合ニ於テ行政裁  
 受ク行政廳ノ處分ニ因リ利益ヲ害セザル  
 レハ行政廳ノ普通キニ依リ利益ヲ害セザル  
 トキハ臣民ハ普通キニ依リ利益ヲ害セザル  
 權利ヲ害セザルニ抗シテ行政裁  
 裁判所ニ抗シテ行政裁  
 右略(參照第七、八條)  
 裁判ニ於テハ國ノ事例ヲ通覽スル  
 門述ニ於テハ國ノ事例ヲ通覽スル  
 制限ヲ加フル事例ヲ通覽スル  
 裁判ニ於テハ國ノ事例ヲ通覽スル

ハ自治制度ト行政裁判ノ制度ヲ并行  
 メカ為メ數級ノ行政裁判ノ制度ヲ  
 此結果未セシナラシメ然レモ  
 ルモテ除ク外大ニ権利ニ關スル  
 訴訟トシテ利益ニ關スルモノ  
 シテ如  
 參照第四、五、六號

訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ  
不服アリ市制第百十條亦同意地方行政官廳若クハ  
ア(市)制第百十條亦同意地方行政官廳若クハ  
ハ地方行政官廳若クハ  
制限置カス入民ヲシテ普ク且自由ニ何事ノ  
ノ澤行セシムルノ法明カナリ然ル  
ム令行政訴訟ヲム起シ得ル場合同一法律勅令ノ  
ヘンル處限リ尚ホ又其類例ヲ見サレテ  
ス示ト邦ノ慣例ニ戾リ市制見サレテ  
モト云フヘシ單リ慣例ニ及ビ政治制  
ニ抵觸スルハ例ニ及ビ政治制  
ノ秋當リ著シラクス國民ノ便宜ヲ  
三

決ニ別モタキヲ末ノ至ケルヲ  
ニ關段ノハ開ノ途ヲ邦廣  
不ノ十ト權キ例ニハ行ニ  
服ル規リニ利シ規ニ行政於  
ア郡定又論ヲ多ク制限訴訟ハ願  
ル長ア町十毀リ按限訴訟ハ願  
者荒ル村ク損臣スヲ認ニ權ニ  
ハク場制行セハ官廳治ルモラニ精  
府ハ合第百十條起テ處年リ記トル  
縣郡ヲ百除ニ訟タ廳治ルモラニ精  
知事會ノ外ニ益ニ不テニ用  
ハ處凡曰ニ益ニ不テニ用  
府分町クトヲ害服行テ井ノ場ヲ  
縣荒村此ヲ得セテ政我公如合設  
事ハ行政中ルト判旋願ニ  
會ニ

ハ亦大憲ノ精神ト背馳スルモナルヲ恐ル本  
員ハ益マシテ前會ニ於テ主張シタル論旨ノ正當  
ナルヲ信シ我國ニ於テハ澳國ノ主義ニ準據シ  
テ訴願ノ門ヲ廣クセシレシコトヲ希望シ止  
ム能ハス因テ左ニ修正案ヲ掲出シテ各位ノ熟  
慮ヲ煩ハシ併セテ贊成ヲ需ム

訴願ハ行政廳ノ處分ニ因リ自己ノ權利若ク  
ハ利益ヲ毀損セラレタリトスル者ハ其處分  
ニ對シ之ヲ提起スルコトヲ得タルモハ  
法律又ハ勅令ニ於テ別ニ規定シタルモハ  
各其規定ニ從フ

